

五島市における G7 サミット保健大臣会合のプレスツアー

令和 5 年 5 月 13 日（土）～5 月 14 日（日）、出島メッセ長崎にて「G7 保健大臣会合」が開催されたのに先立ち、4 月 11 日に外国人メディア（韓国、ベトナム、カナダ、ドイツ）を対象としたプレスツアーが開催されました。プレスツアーの 2 日目は五島市で行われ、長崎県 G7 長崎保健大臣会合推進協議会事務局からの要請をうけ、五島市国保健康政策課および五島医師会とともに、医歯薬学総合研究科の川上純研究科長、前田隆浩教授、野中文陽助教が五島市をはじめとした長崎県内の離島で取り組んでいる様々な事業について、各国メディアより取材を受けました。長崎大学では医歯薬学総合研究科離島・へき地医療学講座の活動拠点として長崎県五島中央病院内に設置された離島医療研究所を中心とした医療、教育、研究の取り組みについてプレゼンテーション、質疑応答を行った後、五島市モバイルクリニックのデモンストレーションを行いました。

（1）プレゼンテーション

まず川上研究科長より長崎大学が五島市で取り組む研究、教育について総論の説明があった後、五島市国保健康政策課の尾崎課長補佐から五島市と医療提供体制の概要について説明がなされました。そして、前田教授が超高齢社会にある日本や長崎県における離島の現状、医療体制について説明した上で、長崎大学の医学（卒前）教育、とくに離島をフィールドとした将来の地域医療を担う医療人育成の取組について概要を説明しました。長崎大学医学部では 2004 年度より臨床実習の一環として全医学生に離島医療・保健実習を課しており、この実習が地域医療における多職種連携や離島医療の実際を学ぶ絶好の機会となっています。つぎに野中助教が、五島市モバイルクリニックの取組についてプレゼンテーションを行いました。五島市玉之浦地区は人口減少や超高齢化が特に進んでおり、高齢者の ADL 低下や認知機能低下に加え、公共交通機関の衰退等により医療機関への通院が困難となった住民も少なくありません。モバイルクリニックは、新しい遠隔医療の形として五島市や五島医師会と協力しながら構想を練ってきた経緯があり、医療機関へのアクセスが難しくなった患者に対する新たな医療サービスとして 2023 年 1 月より開始されました。

（2）五島市モバイルクリニックのデモンストレーション

モバイルクリニック事業は、デジタル田園都市国家構想に採択された五島市の申請事業で、MONET Technologies（株）に委託される形で 2023 年 1 月に開始されました。長崎大学は診療実践面で本事業の運用に深く関わっています。聴診器や血圧計をはじめ、超音波診断装置や心電計などの医療機器、そして遠隔通信機器を備えた「モバイルカー」（医療 MaaS）が、看護師を乗せて患者自宅付近に配車されます。患者は看護師のサポートのもとモバイルカーに乗車し、医療機関にいる医師によるオンライン診療や、他職種による遠隔指導（管理栄養士による栄養指導など）を受けます。同乗している看護師が患者のバイタルサイン測定

や体調の観察をすることができ、患者と医師の間で行われる従来のオンライン診療に比べて医師側が得られる情報が多いです。また遠隔聴診器を用いて心音や呼吸音の聴診を行うことも可能です。移動が困難な患者に対して、原則として1か月に1回程度をモバイルクリニックによる診療を行い、3カ月に1回は対面での診療を行うこととしています。

プレスツアーでは模擬患者に対して、糖尿病や高血圧症を想定としたモバイルクリニックのデモンストレーションを行いました。プレゼンテーションとデモンストレーションの後、活発な質疑応答と各プレスによる関係者インタビューが行われ、各国プレスの関心の高さがうかがわれました。

